

伊笹岬沖断層（旧：但馬沖断層） について

令和5年7月14日（金）

第22回海域活断層評価手法等検討分科会

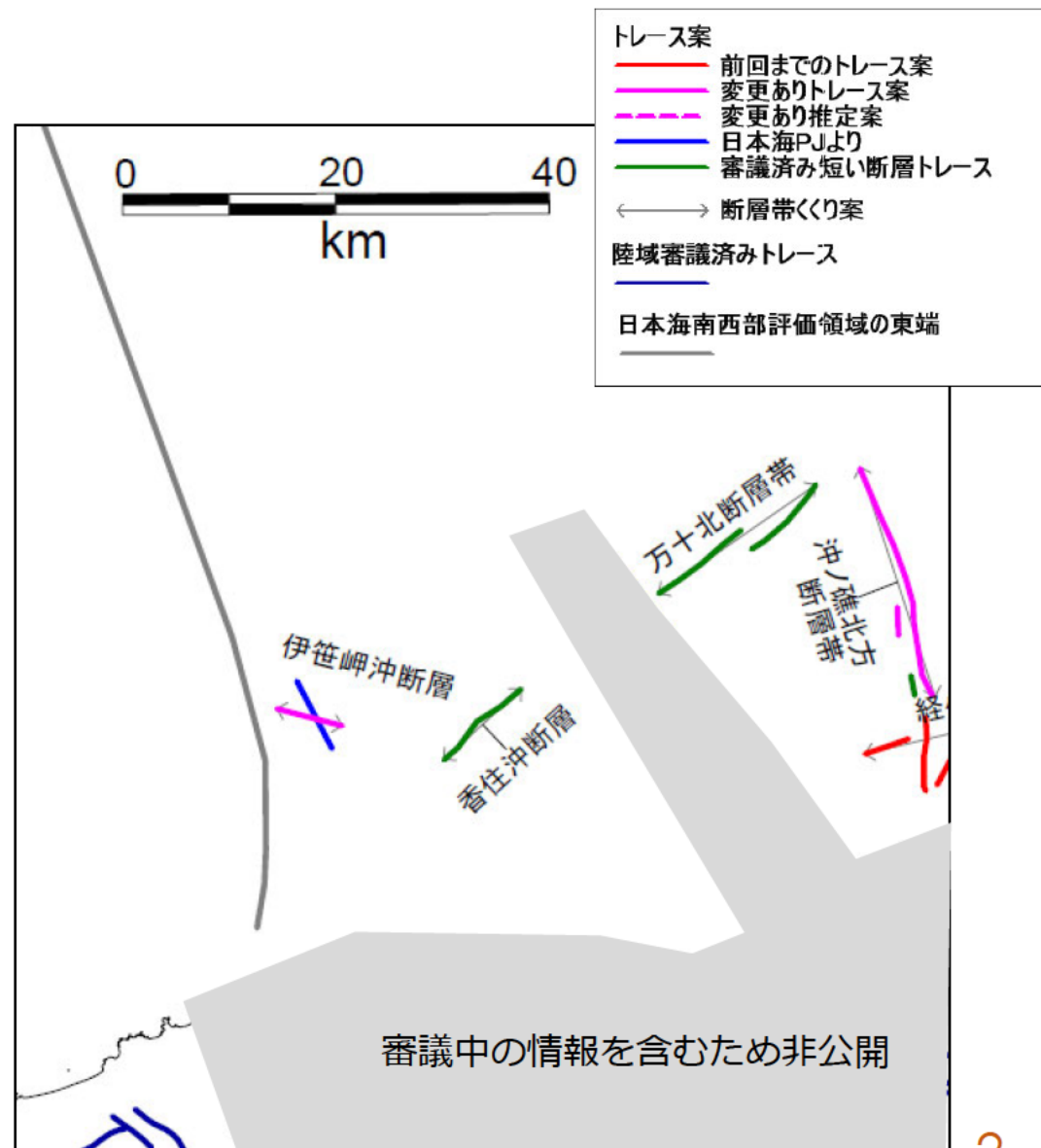
伊笹岬沖断層（旧：但馬沖断層）について

これまでの状況

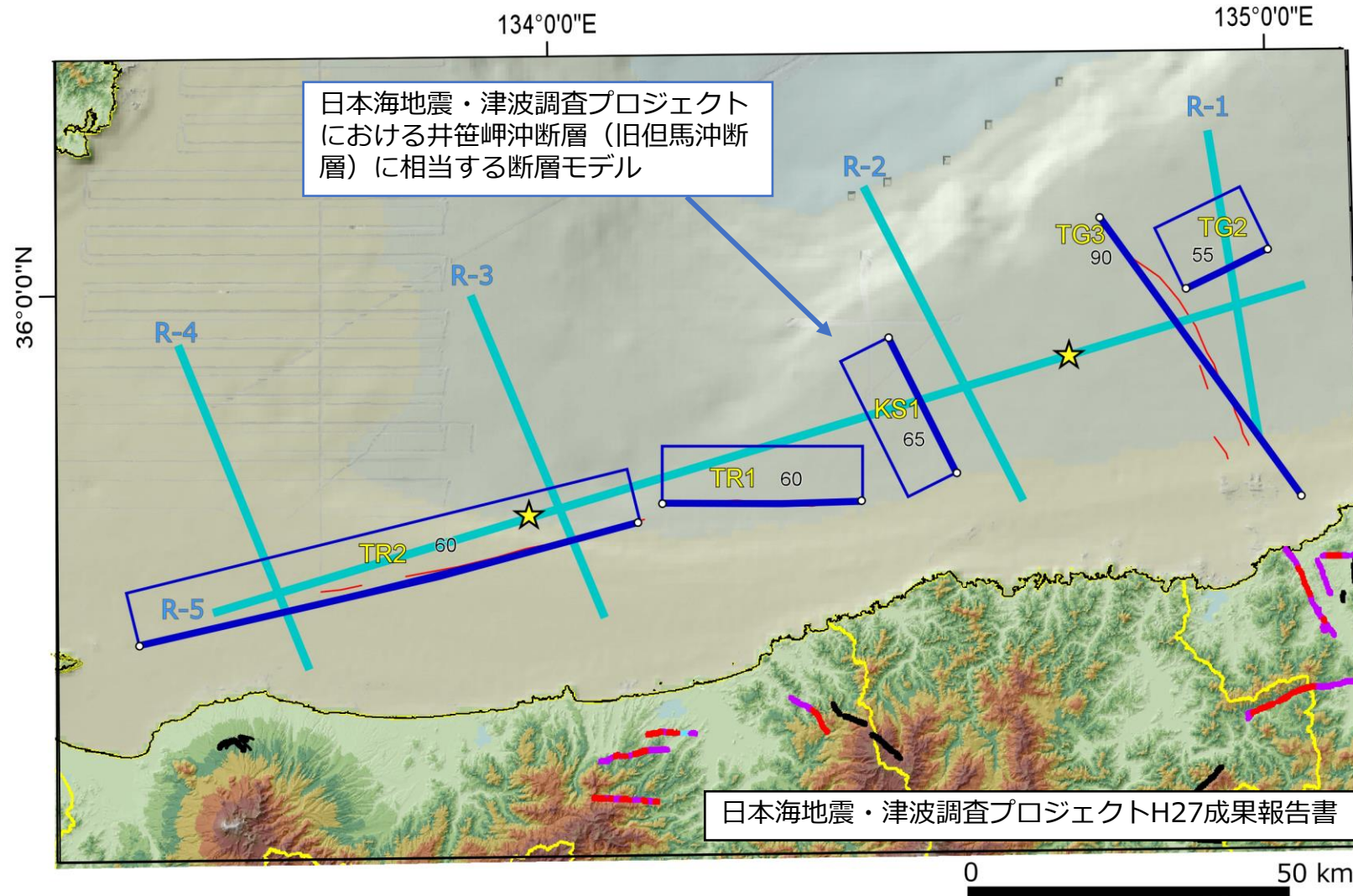
- 海活3～5で審議
- 海活5議事概要「起震断層としては想定しない方向」
- 日本海南西部の評価海域外となったため、
日本海南東部でどう扱うかを審議する必要あり

論点

- 日本海PJの探査測線と産業技術総合研究所の探査測線を考慮し、日本海PJによる断層モデルとは異なるトレースを採用してよろしいか
- その上で、伊笹岬沖断層を海域の短い活断層と評価してよろしいか



伊笹岬沖断層（旧：但馬沖断層）



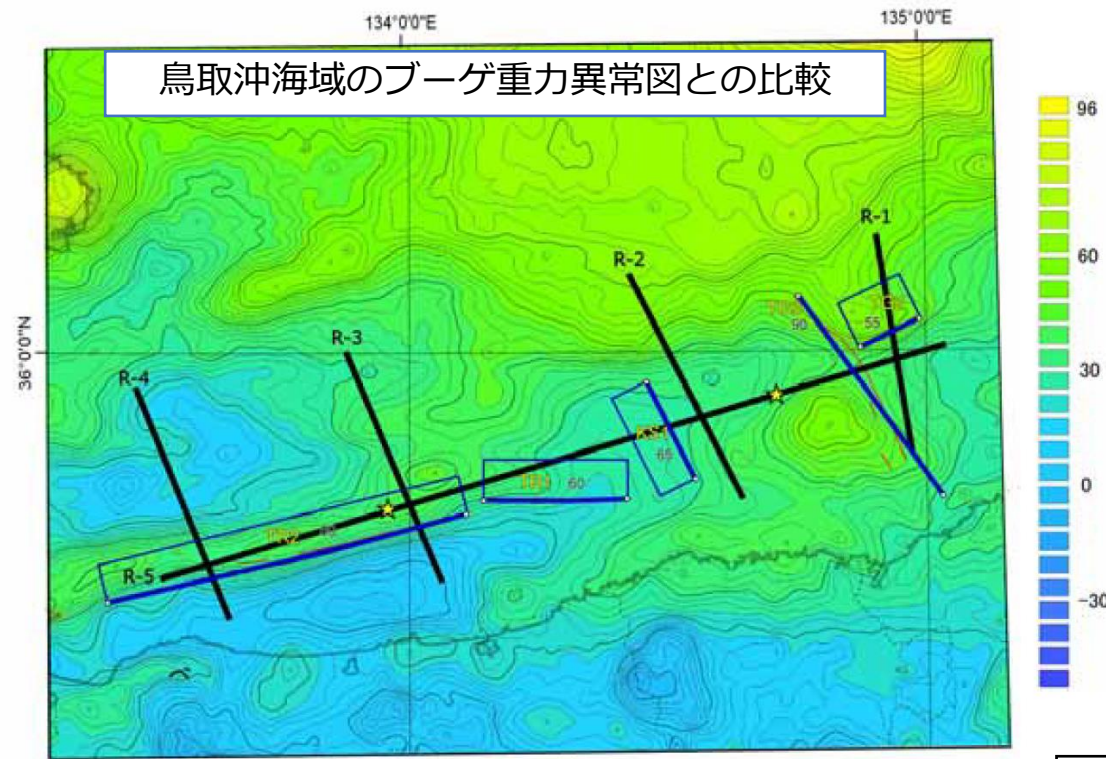
香住沖・鳥取沖周辺の断層モデル

黄色星印：測線上で活断層の存在が判断された地点（断層の走向や長さは不明）

赤・マゼンダ：活断層トレース、黄色文字：断層名、矩形内の数字：断層傾斜角

日本海地震・津波調査プロジェクトでは

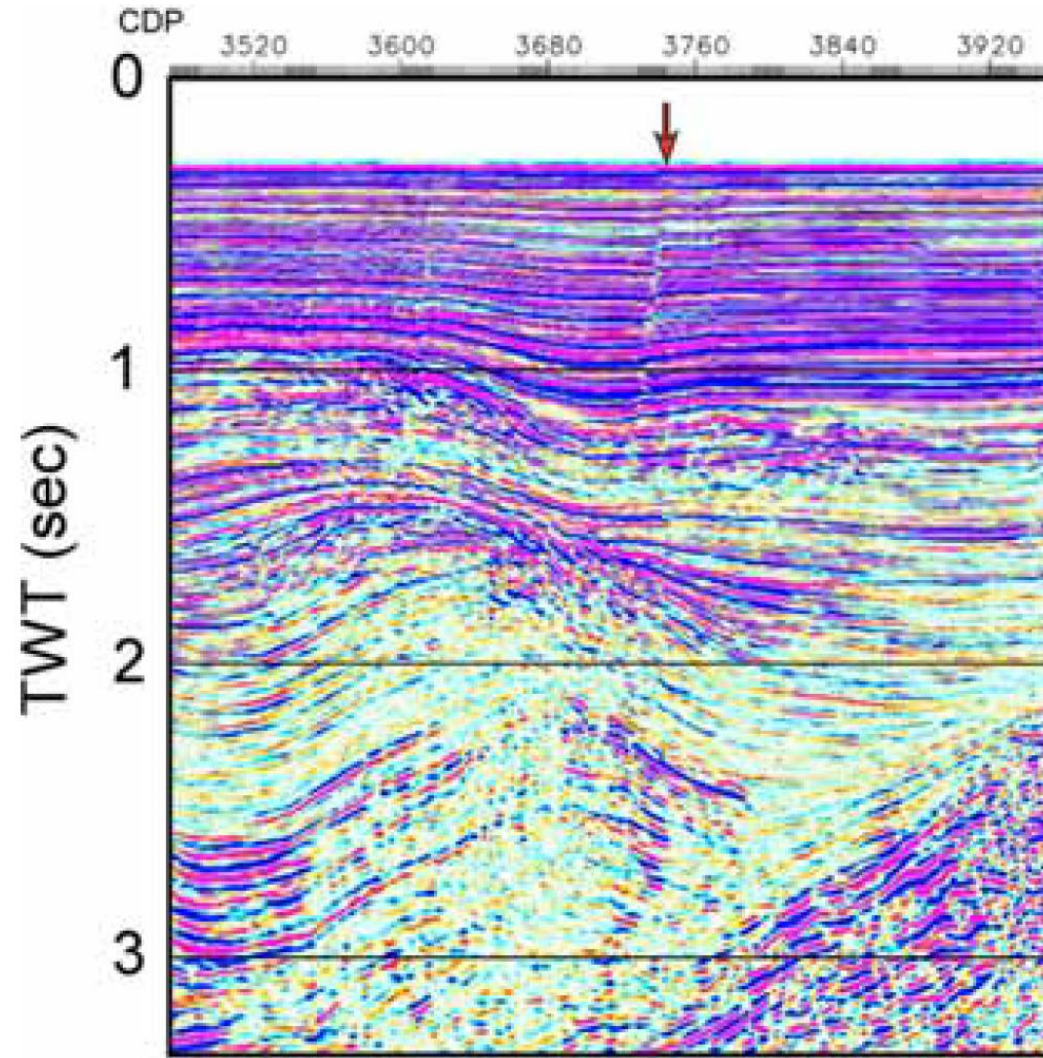
KS1: 測線R5において海底近傍まで変位させている**西側低下の高角度の断層**である（図24）。西側の堆積盆地と東側の隆起帯の境界部に位置する（図19）。この断層についてはこれまで報告がなく、走向・広がりについては不明であるが、ここでは、ほぼ東西方向に伸びる堆積盆地を規制する横断方向の構造であることをもとに、断層の走向を北北西－南南東と推定し、また断層の長さについては堆積盆地の幅から想定した。他の断層に比べ**走向と断層の長さに関して精度が乏しい**。



日本海地震・津波調査プロジェクトH27成果報告書

図 19 鳥取沖海域の探査測線周辺のブーゲ異常図。赤線：海底活断層（日本海検討会（2014）¹⁾）。青色実線：反射法地震探査測線。重力データは、地質調査総合センター(編)（2013）¹⁴⁾の重力DVDによる。仮定密度は 2.67 g/cm^3 。

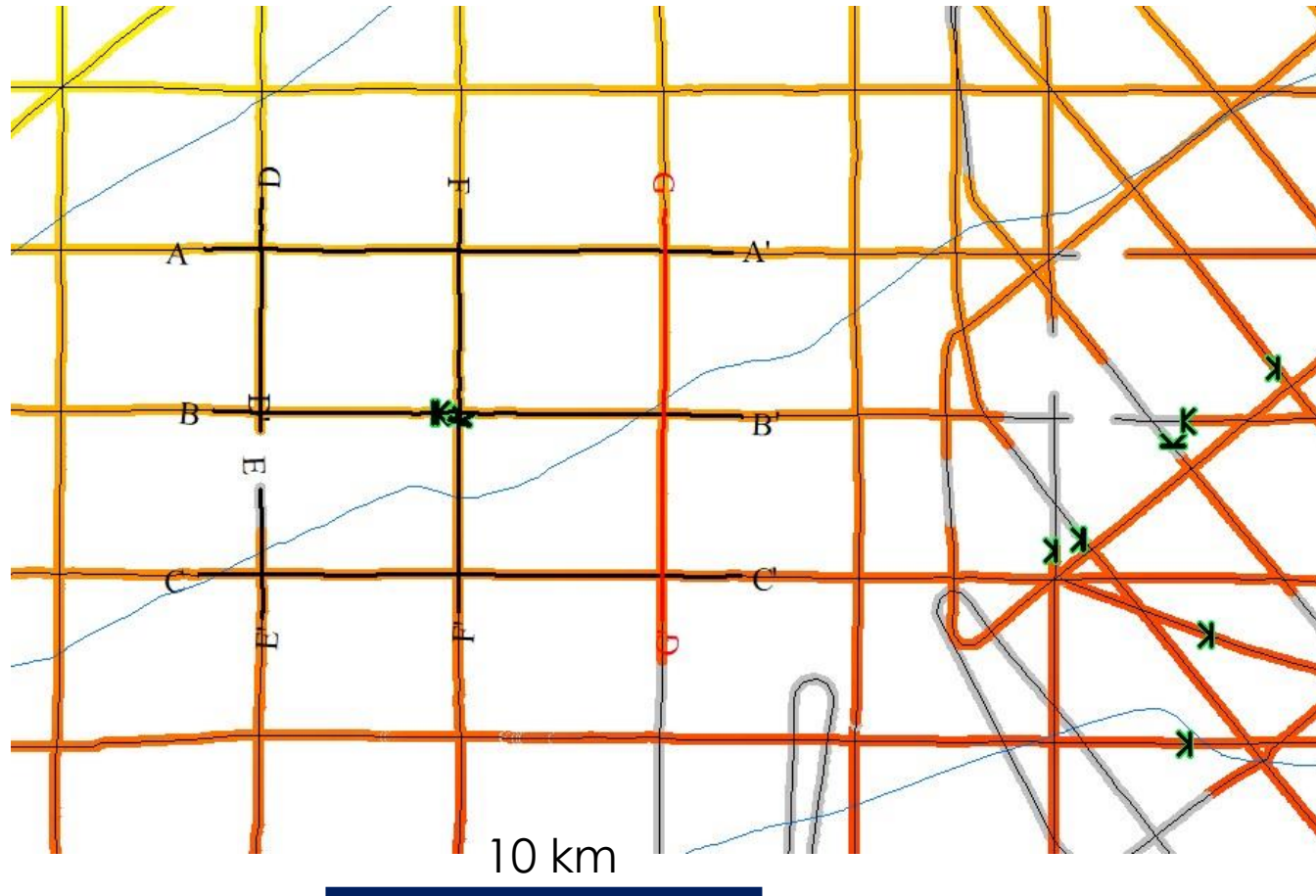
日本海地震・津波調査プロジェクトによる反射断面

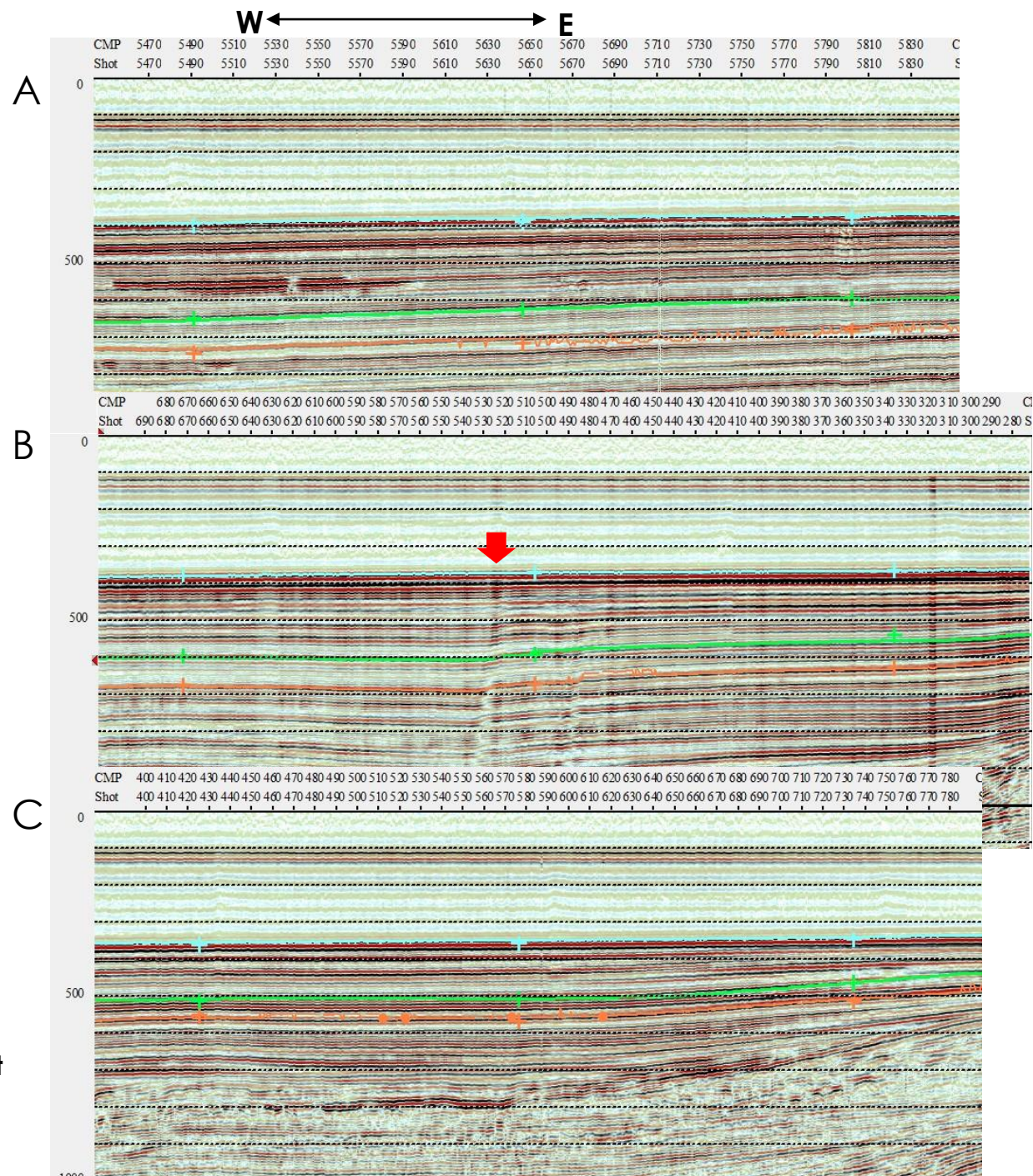


日本海地震・津波調査プロジェクトH27成果報告書

図 24 R5 測線 KS1 周辺の時間マイグレーション断面の拡大図。

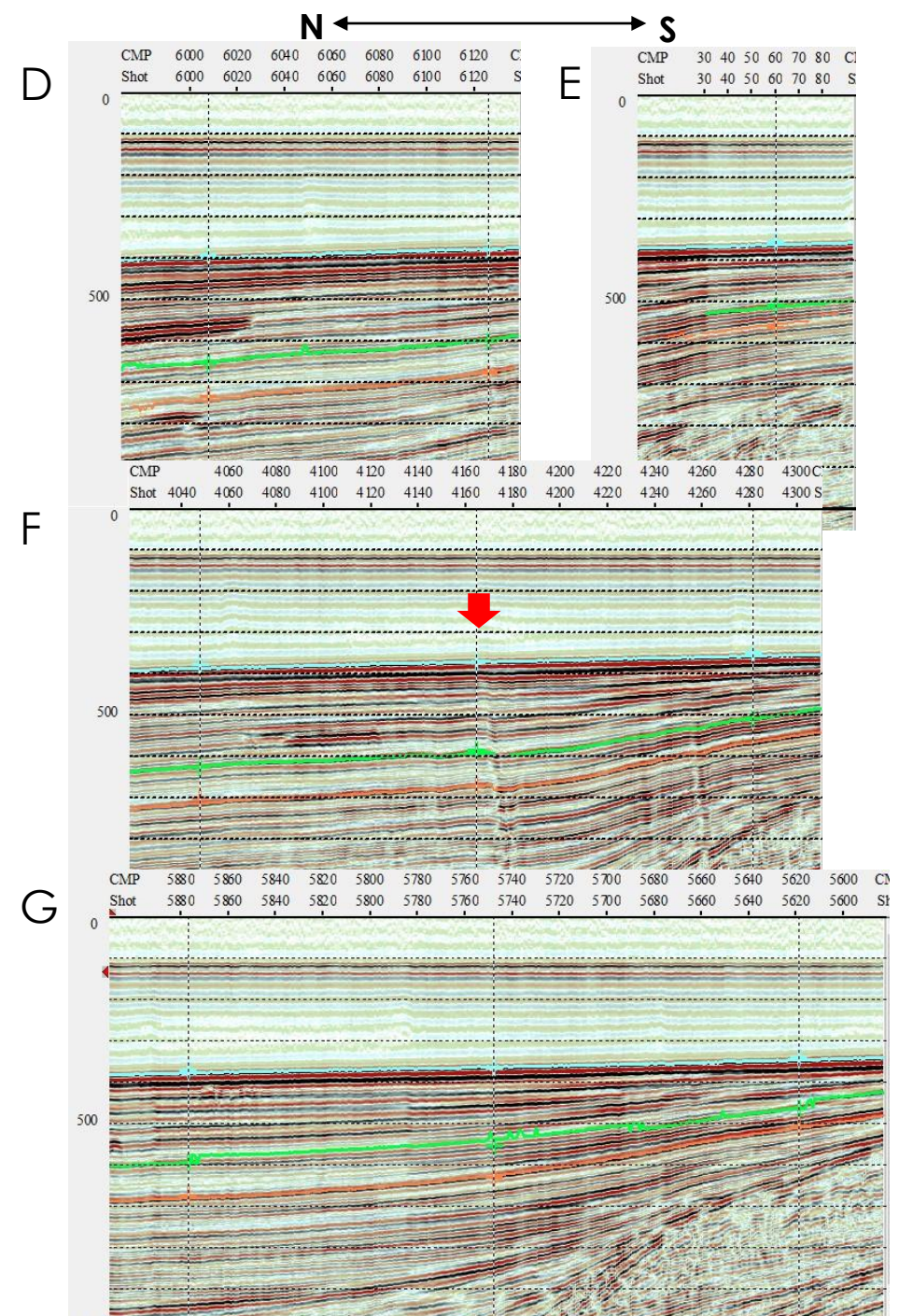
伊笹岬沖



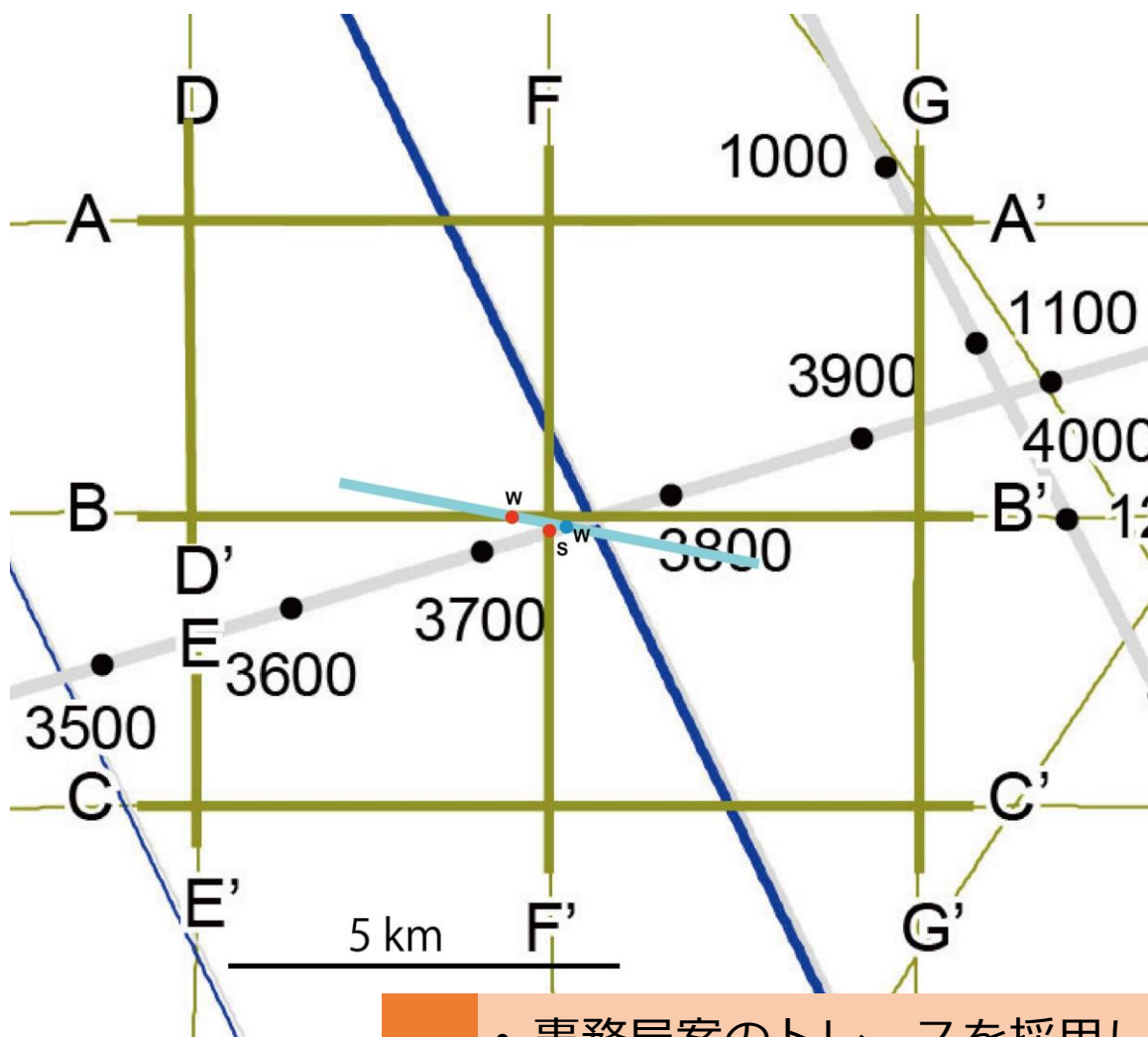


縦スケール
ミリ秒

横スケール
約30m/shot



伊笹岬沖断層のトレース事務局案



- ・ 走向：WNW（ある程度の誤差を含む）
- ・ 傾斜：南
- ・ 端点位置（長さ）：
産総研測線D－F、F－Gのそれぞれの中点（5 km程度）

凡例

水色線：断層トレースの事務局案

青線：KS1(日本海PJによる断層モデル)

灰色線：日本海PJによる探査測線

黄線：産総研による探査測線

●：日本海PJ測線で変位が確認された位置

●：産総研測線で変位が確認された位置

論
点

- ・ 事務局案のトレースを採用してよろしいか
- ・ その上で、伊笹岬沖断層を海域の短い活断層と評価してよろしいか